人工内耳装用児の長期的支援

保健福祉学部　コミュニケーション障害学科
講師　　佐藤　紀代子（さとう　きよこ）

連絡先　　県立広島大学　三原キャンパス　　３５１４号室
Tel　：0848－60－1120　　Fax　：0848－60－1159
E-mail　　kiyoko-y@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野：　小児聴覚障害，母子コミュニケーション指導，人工内耳
キーワード：　聴覚障害，人工内耳，

● 主な取り組み・活動

近年、新生児聴覚スクリーニング検査によって聴覚障害の超早期発見および早期診断が進み、小児の人工内耳手術年齢も低年齢化してきています。また、保険改正により両耳に人工内耳手術を受ける児も多くなる傾向にあります。

これまで、新生児聴覚スクリーニング検査後、乳児期からフォローを開始した聴覚障害児の言語発達、聴覚発達に関わる支援を行ってきました。特に、母親に対して子どもとの音声コミュニケーションの取り方をモデル呈示しながら母子コミュニケーション指導を実施してきました。また、高度難聴児に関しては、人工内耳を選択する症例も多く、子どもの生育段階に応じたきめ細やかな対応が必要となっており、学童期・青年期における学校間の連携も含めたフォローを行ってきました。

● 今後の目標・抱負

重度聴覚障害児に対しては、今後、1歳前後で手術が行われることが多くなると思われますが、難聴の原因や病態によって言語音の弁別能に相違がみられ、聴覚の可能性が個々に異なることが明らかになっています。このことから、従来のように聴覚障害というだけで同じ方法で教育されるのではなく、医学的診断によって個々に適した教育方法・指導法を検討していくことが急務となると思います。同時に、聴覚障害児のコミュニケーション能力を対話（コミュニケーション）の中から評価する方法を検討していく必要もあり、総合的に判断していくことが必要と考えられます。

さらに、幼少時の人工内耳手術の決定は本人の意思ではないため、本人がそれを成長段階の中でどのように受け止めていくかという障害認知などメンタル面の支援も大きな課題となっています。このような長期的なライフスタイルを視野におき、小児から成人にまで繋がる支援体制が必要となっていると思います。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

聴覚障害児の教育・療育・医療機関と連携を取りながら、特に人工内耳装用児には長期的にフォローアップできるような支援体制を築きたいと思っています。

● これまでの連携事例・実績

昨年度は、愛媛県のインクルーシブ教育システム構築事業（特別支援学校のセンター的機能充実事業）に外部専門家として参加しました。この事業は、言語聴覚士が外部専門家として学校教育現場に参加し、助言・指導を行う取組みの一つです。